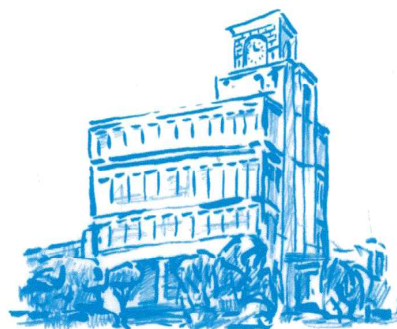


## 校内研究を見直しませんか

伊丹市立総合教育センター  
所長 太田 洋子

伊丹市では、基本的には3年ごとに市指定の研究発表会が課せられています。この制度が始まって15年近い年月が過ぎました。毎年、多くの学校園が研究発表を行い、研究が活性化してきたことはうれしいことですが、反面、課題も見えてきました。

1点目は研究発表をすることが目的化していないかという点です。新学習指導要領においては、「カリキュラム・マネジメント」として「教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと」とあります。そして、カリキュラム・マネジメントの3つの側面として、「教科横断的な視点での教育内容の組織的配列」「PDCAサイクルの確立」「人的、物的資源の活用」が示されています。各学校の研究は、このことを意識した教育課程や授業の改善が行われ、その成果と課題を明らかにすべきでしょう。そして「研究発表会」は、授業やカリキュラムに関するアイデアの交流の場であり、多くの自校の関係者の目を通した「外部評価の場」であるということなのです。



また、実践の省察としての研究紀要には、「①研究テーマとテーマ設定の理由や背景」「②研究の全体構想、計画」「③研究の具体的な実践内容」「④研究の成果と課題」と行った項目が必要になります。これらの内容を意識して、多くの教員の力を結集した紀要を期待したいと思います。

次に、そもそも研究テーマが自校の実態に合ったものになっているのかという点です。研究は、学力調査や学校評価等の数値や教員、保護者や地域の方々からの意見をもとに明らかになった自校の子どもたちの実態と目指すべき目標のギャップを埋めることを目指して設定するものです。しかし、研究テーマや研究仮説と子どもたちの実態が本当に適合しているのかという疑問を持つことがあります。各学校が蓄積してきた実践における資料やデータをもとにして、教員全員で力をあわせて研究テーマを決めていく必要があります。

最後に研究の持続性です。「研究発表会が終わったらほっと一息」という気持ちはわかります。しかし、最初に述べましたが、研究発表会はPDCAサイクルのC（評価）にあたります。そこで校内や参加者等のアンケート結果を踏まえ、研究の成果と課題を分析するとともに、今後の研究の方向性を考えていく必要があります。

また、取り組んだ結果は必ずデータに表れるものです。自校の研究テーマに基づく実践の成果を見る指標をあらかじめ設定しておき、学校評価等の項目を工夫しておくことが必要です。数値が改善されない場合は、研究の方向性を見直す必要があります。また、成果が表れたときも、「このままこの研究を続けていいのか」「成果が表れたので今度は新たなる挑戦をしてみよう」と検討することが次へのステップに繋がります。研究主任を中心に、「やってよかった」と思える校内研究を進めていくことで「教員個々の実践力」と「学校のチーム力」の双方が向上するのです。



# 授業研究の 質的転換

## 次の授業実践へつなげる

授業研究をその場限りで終わらず学校全体のものとするとともに、常に授業の質を高めていく



「授業研究」で、**分析に基づいて改善策を考えることができ、**  
一人一人の**子どもの学力を確かなもの**へと高めていく

## 「主体的・対話的で深い学び」

の実現に向けた**授業改善**のために、まずは教職員の研究の場である**授業研究会**の**事後協議会**に焦点を当てて考えましょう。

## 事後協議会での発言

授業での子どもの姿から具体的な事実と子どもの名前を用いて語ること!!

- ▶ 授業参観において子ども一人一人の姿を丁寧に記録した上で参加する
- ▶ 気になった授業場面については、課題や問題状況をどのように改善するか具体的なアイデアを語る

## 改善

## 質の高い協議の場づくり

参加者が得た情報について立場を超えた積極的な意見交流を目指す!!

- ▶ 若手教職員は積極的に発言をする。参加者はじっくりとそれに耳を傾けることで**新たな気づき**（課題や改善等）が得られる
- ▶ 参観者の**授業の見方の違い**とそれを生かした交流が豊かな学びの場を創り出し**チームとしての一体感**を生み出す

## 課題

「授業研究」を通して、教職員全員で今後の授業改善ポイントを共有し、日々の授業を変えていこう

子どもにつけたい力を明確にし、**指導案を事前に検討する**

普段どおりの授業から学び合うスタイルこそ**授業者・参観者ともに日常の授業実践につながる**

授業者の強みやよさ・個性が**評価される方が、授業者にとってプラスになる**

## 自己満足型の指導案

(子どもの姿が見えない議論)

## 普段どおりではないイベント的な授業

(授業者も参観者も学びなし)

## 授業者批判

(重箱の隅をつつくような議論)



# 授業力向上 (カリキュラム) 支援センター

カリキュラムセンターでは、講座やセミナーを開催しています。  
事前申し込みは不要なので、当日カリセンにお越しください。

## ● カリセンミニ講座

若手教員の授業力や学級経営力向上をめざす

- ◆ 保育・授業力の向上にむけての実践研修
- ◆ 学級づくりについて
- ◆ 指導案作成 など

## ● 臨時講師等対象セミナー

臨時講師等をサポートし、教員としての資質向上をめざす

- ◆ 自分をアピールする文章の書き方
- ◆ 情報教育の最新事情
- ◆ 自分をアピールする話し方 など

## ● 経験豊かなコンサルタント

授業づくりや、学級づくりについて、いつでも気軽にご相談ください



山田恵子  
コンサルタント

先生の元気と笑顔で子どもたちの学校生活は豊かになります。わかる授業をめざして、日々熱心に取り組んでおられる先生、心や体が疲れる前に、コンサルタントと一緒に、教師として生きる技をライフステージにあわせて磨きませんか？一人より二人で！待ってます。



後藤猛虎  
コンサルタント

「問題点を明らかにして  
授業力アップ！」  
若い先生の授業を見て、「うまくいかなかった原因は」と聞きますと、問題点を自分でしっかり分析（気づく）できていないことがあります。授業力アップのコツは問題点を明らかにして次につなげることです。センターでは、「気づき」を大切に若い先生方を支援します。お気軽にお立ち寄りください。

## カリセンの 3つ の機能

### コンサルティング

経験豊富なコンサルタントが常駐して学級経営、保護者対応、教材研究、指導案作成や研究の進め方など、様々な教育に関する相談にお答えします。

コンサルタントが各学校園を訪問し、教育に関する様々な相談にお答えします。

### ワーキングスペース

5階の部屋を自由に使えます。様々な人数、用途に対応できます。グループ活動や、情報交流の場として使えます。



### コンテンツ

パソコン（自分のIDで使えます）、コピー機、プリンター、電子黒板、DVDダビング機、プロジェクターなど、学校でできることがここでもできます。  
※教材研究を集中してやりたい先生は、是非おすすめです。



発行 伊丹市立総合教育センター  
所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1  
平日（水以外）9:00～21:00 水 9:00～17:30  
土 9:00～17:00  
電話 072-780-2480 FAX 072-780-2482  
休館日 日曜・祝日、年末・年始  
ホームページ <http://www.itami.ed.jp/>